

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年5月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0770403756		
法人名	(有)ヘルパーステーション小川		
事業所名	(有)ヘルパーステーション小川 ひまわりの家		
所在地	福島県いわき市小川町福岡字飯森37番地の1 (電話)0246-83-1808		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	平成19年4月10日	評価確定日	平成19年5月30日

【情報提供票より】(平成19年3月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	18年3月3日
ユニット数	1ユニット	利用定員数計 9人
職員数	15人	常勤7人, 非常勤7人, 常勤換算7,2人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	100円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(平成19年3月20日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1		名	要介護2		名
要介護3	5名		要介護4	3名	
要介護5	1名		要支援2		名
年齢	平均 86.4歳	最低	79歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	草野医院 作田歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな地に建てられたホームには、季節になると何百本ものひまわり、コスモスが咲く。ホ-ル前面にはウッドデッキがあり、天気が良ければお茶も楽しめる。こうした環境の中で利用者はゆったりと過ごしている。職員研修にも積極的に取り組み、管理者、職員が話し合い、入居者本位の介護計画を作成し、自立支援に重きをおいたケアを実践している。また、入居者がホ-ムで終末を迎えることに力を入れており、静かに安心して死を迎えられよう職員一同が家族の方針に添った方向で努力している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義や目的を職員に伝え、全職員で取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5) これまで2回開催した。ホームの概要、理念、利用状況及び認知症等について説明し、あわせて事故の報告も行い、懇談した。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族には、来訪時や家族会を開催した際に意見や要望を出してもらおうようにしているが、なかなか出されないのが実状である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の祭りや納涼祭に参加したり、子ども神輿をホ-ムに迎え入れて楽しんでもらったりしている。また、職員が地域の婦人会活動に参加し、地域の人と交流する中で、地域の人がホ-ム見学に来るなど交流が広がっている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を踏まえ、家族や地域との関わりの中で、その人らしい生活が送れるように質の高いケアの提供を目指した理念を職員全員で話し合い、作り上げた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	具体的なケアの振り返りを行うミーティングの時に、実践が理念にそったものなのかどうか話し合い、場合によっては家族も含めたカンファレンスを行い、本人の意思を尊重するようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや納涼祭に参加したり、子供みこしをホムに迎え入れて楽しんでもらったりしている。また、職員が地域の婦人会活動に参加し、地域の人と交流する中で、地域の人がホムの見学にくるなど交流が広がっている。		地区の公民館の年間行事等を把握し、入居者が参加できるものがあれば、参加することを検討してほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めて評価に取り組んだが、評価の意義や目的を全職員に伝え、全職員で取り組んだ。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>これまで2回開催した中でホムの概要、理念、利用状況及び認知症について説明し、あわせて事故の報告も行い、懇談した。</p>		<p>運営推進会議は、地域の理解と協力を得るための貴重な機会です。積極的に活用すると共に、今回の自己評価、外部評価の結果を受けて、取り組みや改善経過のモニタ役も果たしてもらえればと思います。</p>
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族等の来訪時にも利用者の状況を知らせ、さらに毎月担当スタッフより現在の状況を手紙で知らせている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族には来訪時や家族会を開催した際に、意見や要望を出してもらうようにしているが、なかなか出されないのが実状である。</p>		<p>入居者のホムでのより良い暮らしを支えていくためには、ホム、地域、家族が一体となっていくことが必要であり、そのためにも家族の意見が重要であることを理解してもらえよう努めてほしい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設1年目で職員の異動はない。介護職員が、常勤1名に対し、非常勤12名と非常勤が多い。</p>		<p>馴染みの関係については問題がないとのことであるが、専任化について検討してほしい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には、なるべく参加するようにしている。職場研修として、新人スタッフ研修、現任スタッフ研修を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者、管理者は、グループホーム連絡協議会等に参加し、交流している。職員は研修会などのみでの参加となっている。		職員が他のグループホームを見学したり、意見交換できる場を作るようにしてほしい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日入居者から学んでいる。入居者の言葉ひとつにしても、それをメモして家族に見せると感動する。職員には、こうしたことに感動する心(感性)を持つよう指導している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人への声かけや家族の面会時に希望や意向を聞き、把握に努めている。		生活歴情報の充実と日々の関わりの中で把握した本人の思いや生活歴情報を職員で共有できるよう努めてほしい。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づき、本人、家族、職員の意見や気づきを取り入れ介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた援助計画の評価を職員の話し合いで実施している。状態変化の際は随時見直しを行っている。		状態変化がないような場合でも、1ヶ月毎のモニタリングを行うようにするとなお良い。
3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。家族のつきそいを原則にしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期医療連携システムができており、入居時に家族と話し合いをしている。ホームで静かに安心して死を迎えられよう職員一同家族の意向に添った方向で努力している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人に声かけをするときは、姓又は名前で行うなど本人を傷つけないような声かけ、対応に配慮している。		入居者が部屋に行くときやトイレ誘導時、またはおむつの交換時の声かけにより一層配慮するとともに、記録類を出しっぱなしにしないよう注意することをミ-テング等で徹底してほしい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、入浴、散歩等一人ひとりのペース、希望にそって支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、カット等入居者が出来ることはやってもらっており、食器拭き、箸くばりなどの役割がある。		職員も入居者と一緒に食事を楽しむことの検討、献立の工夫(同じ物が続かないように)、栄養士による献立の点検、指導を受けることなど検討してほしい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週の計画表にそって2,3回の入浴としている。		入居前の入浴習慣は把握しているとのことなので、望む時間帯での入浴が出来るよう人員配置を検討してほしい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	元自転車屋さんには車椅子の点検してもらったり、他の方には洗濯物たたみをしてもらう等、各入居者に合わせた役割があり、また楽しみごととして、詩、折り紙、習字をしたり、みんなでドライブに行ったりしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	季節や天候に合わせて散歩を楽しんでいる。あまり遠くに行けない利用者には庭の野菜や果物の収穫を楽しんでもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。居室には鍵がない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>夜間緊急時マニュアルがある。消防署に来てもらったの消火訓練を実施、避難方法について指導を受け対策を行った。</p>		<p>今後、夜間を想した避難訓練や入居者、地域の人を含めた避難訓練、入居者一人一人を想定した避難訓練等を行ってほしい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量、水分量は毎日チェック表に記録され、職員も情報を共有している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>普通の家のように玄関がつくられ、飾りつけもしている。また常に花を飾り、季節感にあふれている。ホールの前にウッドデッキがあり天気の良い日はデッキでお茶などが楽しめる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた物や親しんでいたもの(ぬいぐるみやラケット等)を部屋に置くように配慮している。また、ポータブルトイレを使用している部屋には消臭器を置くなど居心地の良い居室づくりに配慮している。</p>		<p>まだ部屋に持ち込み品が少ないように思われるので、家族の理解、協力を得る努力を継続してほしい。</p>

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(別紙1)を添付すること。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 ヘルパーステーション小川ひまわりの家

記入担当者名 柏浦 ひろ子

評価結果に対する事業所の意見

特に無し

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。